いま、「保養」をとおして原発事故を再び見つめる意味

ゆっくりすっぺ in 関西代表・宇野田　陽子

東日本大震災後、豊能障害者労働センターとして、被災地にカレンダーを届けたり「ゆめ風基金」と連携しながら被災障害者支援を行ってきました。その中で宇野田陽子さんと出会い、福島県の障害のある子どもとその家族を関西に招いてゆっくりしてもらうという保養プロジェクトを続けてきました。今回、関西各地で「保養」を実施してきた人々の、それぞれの思いと歩みが『こんど、いつ会える?』という一冊の本になりました。

これまで「積木」の記事を読んでくださり「ゆっくりすっぺ in 関西」を支援してくださった皆様に感謝すると同時に、各地で積み重ねられてきた活動が未来に活かされるために一人でも多くの方にお読みいただけることを願っています。

二〇一一年三月の東日本大震災と東京電力福島第一原発事故のあと、原発事故の影響を受けた地域の子どもたちを受け入れる「保養」の活動が日本各地に広がりました。だれに指示されたわけでもないのに、立場も年齢も職業も異なる数多くの市民が立ち上がり、日本中に保養キャンプが誕生していきました。

保養主催者を突き動かしたのは、「ほうっておけない!」という、やむにやまれぬ思いでした。それは、災厄に巻き込まれた人々をほうっておけないという思いと表裏一体のものとして、「いまこの人たちの状況に見て見ぬ振りをするなら、自分はもうこの先、生きていけない」という感覚を伴うものでもありました。

しかし、少なくとも一〇年にわたって日本中で継続している活動でありながら、保養は全く知られていません。それどころか、活動を縮小、終了する団体も出てくる中、「このままでは、なかったことにされてしまう」との懸念が大きくなりました。そして、どうすれば自分たちの活動の記録と記憶を次世代に手渡せるだろうかと関西の保養団体で話し合いを重ね、約二年間をかけてできたのがこの本です。

これまでほとんど語られることのなかった保養主催者の率直な声はどれも読みごたえがあり、若手スタッフの対談からは一筋の希望が見えてきます。また、保養が必要とされるような社会を一刻も早く終わらせなければならないという思いから、原発の問題や福島原発事故についてこれから知ってみたいという人たちに役立つよう、資料編にも工夫を重ねました。

二〇一一年四月に「大阪でひとやすみ!プロジェクト」を立ち上げた私は、不思議なご縁のつらなりの中で、福島県南相馬市で暮らしている障害のある子どもたちと出会い、同年七月から彼らと一緒に関西の保養キャンプに参加するようになりました。その後、豊能障害者労働センターのみなさんと出会い、二〇一三年に「ゆっくりすっぺ in 関西」が誕生しました。本書にも田岡ひろみさんが心のこもった原稿を寄せてくださっています。

いま思うと、原発事故後の混乱の中で取り組まれた保養キャンプの現場は、矛盾に満ちた日本社会の縮図ともいうべき場所でした。本書は原発事故後の保養についての記録ではありますが、災害が頻発し、格差が拡大する今だからこそ、誰かの痛みを他人事とは思えないと感じるすべての人たちと共有し、新たな出会いを模索するための本であれたらと願っています。どうか手に取っていただけたら幸いです。

◀ほようかんさいキャラクター・ほよよん

●白か黒かじゃなく、
一人一人を想像しながら
いつ、だれが、なにの被害者、
被災者になるかわからない時代だ
からこそ、想像力がすごく大事。
想像せずに、自分だけの価値観だ
けにたよって判断すると、「なんで
もっと頑張れないの?」「もっとし
んどい思いをしている人もいるよ」
というような話になりがちです。
(中略)まずは知ろうとすることが
大切。そして、考える、想像する。
そこから少しずつその人だけのス
トーリーが見えてくる。
「はじめに」より

本のタイトル『こんど、いつ会える?』は漠然と「フクシマ」支援ということではなく一人一人との出会いをつないでいく営みを表していると思います。

(編集部)

同封のカラーチラシをご覧ください。

こんど、いつ会える?
原発事故後の子どもたちと、関西の保養の10年

編著：ほようかんさい
(保養をすすめる関西ネットワーク)
1,760円(税込)
発行：石風社 2021年11月30日刊
A5判　カラー口絵8頁　本文262頁

【ほよう(保養)とは】

原発事故で放射性物質による影響を受けた地域に住む人々や、暮らしの中で放射能の不安を抱えることになってしまった人々などが、休日などを利用して居住地から受け入れ地へ出かけて、放射能に関する不安から一時はなれて心身の疲れを癒そうとすることを言います。

おとなたちにとっては、心身を休めたり、不安を語り合ったり、情報交換をしたり、人間関係を広げたりする機会となります。大人の精神的な安定が子どもたちの育ちに影響を与えることを考えればおとなも不安から離れてほっと一息つけることには大きな意義があると言えます。

【ほようかんさい】について

関西だけでも、少なくとも三〇団体以上が保養に取り組んでいます。関西で保養に取り組む団体が経験を分かち合い、知恵を出し合いながら、横のつながりを丁寧に作ってきました。

ほようかんさいは、そうした団体が関西一円での活動を円滑化するため、二〇一四年に発足した緩やかなネットワークです。

「ほようかんさい」ホームページより